

農学

の 夕べ

★ 平成29年度山形大学農学部

★ 農学紹介講座

現代の農学の対象は食育、有機農業、バイオテクノロジー、環境問題など非常に幅広くなっています。

そんな農学を広く皆さんに知っていただきたいと考え、企画しました。

事前申込は不要です。興味のあるテーマがありましたらぜひお気軽にお越しください。

平成29年

10月5日(木)～11月30日(木)

講義時間/毎回 **18:00～19:30** 【全8回】

場 所 : 山形大学農学部3号館2階202講義室

受講料 : 無料 (申込み不要)

〈お問い合わせ先〉山形大学農学部企画広報室

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23

TEL: 0235(28)2803

E-mail: nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※都合により、11/16(吉村准教授)と11/30(渡辺准教授)の講義日程を右記のとおり変更します。

- 10/5 ① 「私たちの生活と農業・水産業のかかわり～私たちはただの消費者じゃない?～」
教授 渡部 徹
- 10/12 ② 「カラダに良い油、悪い油」
准教授 井上 奈穂
- 10/19 ③ 「山岳信仰と出羽三山修験者の歴史①」
客員教授 前田 直己
- 10/26 ④ 「里山の隣人、タヌキとノウサギの生態」
助教 斎藤 昌幸
- 11/2 ⑤ 「イチゴ ～その歴史と今～」
教授 西澤 隆
- 11/9 ⑥ 「山岳信仰と出羽三山修験者の歴史②」
客員教授 前田 直己
- ※ 11/16 ⑦ 「米由来副産物、廃棄物の再資源化に関する最近の動向」 准教授 渡辺 昌規
- ※ 11/30 ⑧ 「芽生えから朽ち果てるまで～炭素の流れから樹木の一生を考える～」 准教授 吉村 謙一



開講日	講義テーマと概要	担当教員
第1回 10月5日(木) 202講義室	「私たちの生活と農業・水産業のかかわり～私たちはただの消費者じゃない?～」 私たちは、消費者として日頃、農・水・畜産業の恩恵を受けています。一方で、私たちの生活から出る廃棄物もまた、功罪の両面で、これらの一次産業に少なからず影響を与えています。本講義では、最新の研究成果をもとに、(ただの消費者としてではない) 私たちの生活と食料生産との関わりについて考えていきたいと思えます。	渡部 徹 (水士環境科学コース)
第2回 10月12日(木) 202講義室	「カラダに良い油、悪い油」 近年のダイエットブームや生活習慣病罹患者の増加にともなって、「油脂＝カロリーが高くて、カラダに悪いもの」というイメージを持っていませんか? 油脂(脂肪酸)には良いものも悪いものもあります。また、さまざまな機能性を有するものも存在します。ここでは、油脂にまつわるトピックスや、油脂(脂肪酸)の機能性に関する研究内容について紹介します。	井上 奈穂 (食品・応用生命科学コース)
第3回 10月19日(木) 202講義室	「山岳信仰と出羽三山修験者の歴史①」 世界で最初にブロッケン現象に名前をつけたのは、出羽三山の修験者だった?! 俳人・松尾芭蕉が奥の細道で出羽三山に修行に入った際の門人、曾良の随行日記に着目し、山岳信仰と歴史について2回にわたり読み解いていきます。 ※ブロッケン現象：高山に登った際、登山者自身の影が太陽を光源にして霧や雲に映る現象。飛行機の影が雲に映ることや、影の周囲に虹のような光の輪が現れることがある。	前田 直己 (客員教授)
第4回 10月26日(木) 202講義室	「里山の隣人、タヌキとノウサギの生態」 民話「かちかち山」では、狸と兎の激しいやり取りが描かれています。唱歌「故郷」では、彼の山の兎を追った思い出が述べられています。タヌキとノウサギは日本に広く分布しており、里山的な環境と比較的相性が良いせいか、日本人にとってなじみ深い生きものとなっています。しかし、みなさんは彼らのことをどれくらい知っているでしょうか? 今回は里山の隣人、タヌキとノウサギの生態についてご紹介します。	斎藤 昌幸 (森林科学コース)
第5回 11月2日(木) 202講義室	「イチゴ ～その歴史と今～」 魅惑的な赤い色と甘く適度な酸味のあるイチゴは、最も人気のある果物の一つです。でも、現在私達が食べているイチゴがいつどこで最初に作られたのか知っている人は余り多くありません。また、現在イチゴは寒冷地から熱帯地域に至るまで世界中で栽培されていますが、どの国が最も多くイチゴを栽培しているのでしょうか? さらに、日本におけるイチゴの栽培技術は世界でもトップクラスと言われますが、日本のイチゴの生産性も世界でトップクラスなののでしょうか? こうした点についてデータを基に考えて行くと、意外な一面が見えてきます。本講義ではイチゴを通して世界と日本の園芸生産について考えて行こうと思います。	西澤 隆 (安全農産物生産学コース)
第6回 11月9日(木) 202講義室	「山岳信仰と出羽三山修験者の歴史②」 世界で最初にブロッケン現象に名前をつけたのは、出羽三山の修験者だった?! 俳人・松尾芭蕉が奥の細道で出羽三山に修行に入った際の門人、曾良の随行日記に着目し、山岳信仰と歴史について2回にわたり読み解いていきます。 ※ブロッケン現象：高山に登った際、登山者自身の影が太陽を光源にして霧や雲に映る現象。飛行機の影が雲に映ることや、影の周囲に虹のような光の輪が現れることがある。	前田 直己 (客員教授)
第7回 11月16日(木) 202講義室	「米由来副産物、廃棄物の再資源化に関する最近の動向」 庄内は日本有数の米どころであり、米に関わる産業が古くから根付いております。現在、米の加工時に様々な米副産物が生成し、あらゆる用途で利用されております。本講義では、米加工副産物の詳細とその利活用ならびに、その最新の動向について広く講義します。	渡辺 昌規 (食品・応用生命科学コース)
第8回 11月30日(木) 202講義室	「芽生えから朽ち果てるまで～炭素の流れから樹木の一生を考える～」 樹木は大気中の二酸化炭素を吸収し、光合成をおこなうことによって生長します。また、樹木は枯死すると微生物等によって分解され、大気中に二酸化炭素を放出することになります。生長して大きくなり、枯死した後に分解されると「樹木の一生」は炭素の動きとして表現することができます。本講義の前半では樹木の生長・枯死・分解と環境の関わりについて説明し、後半では森林全体の炭素の流れを示し、森林の二酸化炭素吸収機能について議論したいと思えます。	吉村 謙一 (森林科学コース)